

■ いのちを大切にすることを育む



いのちを大切にすること

あらゆる生命を尊重し、感じる心や感謝する心、思いやりの心を持ち、生きることのすばらしさを自覚すること

近年、少子化や自然体験の不足等により、子どもたちは、きょうだいや仲間とけんかをした経験や、生き物の死に遭遇した経験が少なくなり、「いのちの大切さ」を実感することが難しくなっています。

学校では、「いのちの大切さ」が子どもたちの心に浸透するように、道徳教育を中心に取組を進めています。また、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることができるよう、人権教育にも取り組んでいます。

「いのちの授業」と「自己肯定感を高めるための支援プログラム」

県内のすべての学校では、子どもたちに『いのち』のかけがえのなさや、夢や希望をもって生きること、人への思いやり、互いに支え合って生きることの大切さを実感してもらう「いのちの授業」を行っています。

いじめや自殺等が大きな課題となっている中、「いのちの授業」の必要性や重要性はますます高くなっています。

また、「全国学力・学習状況調査」の結果から、神奈川県の子どもたちについては、「自分にはよいところがあると思えるか」「将来の夢や目標を持っているか」といった面において、少しずつ高まりは見られますが、更に働きかける必要があることがわかっています。

そこで、県教育委員会では、「自己肯定感を高めるための支援プログラム」を作成し、大人たちが子ども・若者に、どのように関わればよいか、プログラムとして示しました。

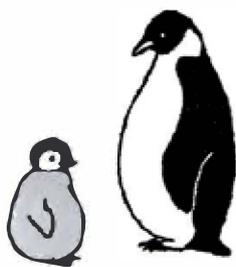


「自己肯定感を高めるための支援プログラム」

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/jikokouteikan.html>

自分の大切さを認める「自己肯定感」を育む

自己肯定感とは、「自分が価値ある人間であり、自分の存在を大切に思う気持ち」です。「ありのままの自分や、自分の存在そのものを認められる」ことによって育まれます。



「おはよう」「おやすみ」や「がんばったんだね」などの言葉かけや、作業の手を止め、子どもと向き合って話を聞くことなどが、子どもの存在を認め、ありのままの姿を受けとめることに深くつながっています。

「わたしはわたしでよいという思い(自分が好きという気持ち)」
ありのままの自分を大切に思う心「自己肯定感」を育てましょう

他の人の大切さを認める人権教育

学校における人権教育は、授業だけでなく、教育活動全般を通して、様々な場面で行われています。

人権教育の目標

- 児童・生徒が発達段階に応じて、人権の意義や内容について理解し、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになること。
- それが様々な場面で具体的な態度や行動に現れるようにすること。

県教育委員会では、「かながわ人権施策推進指針(改定版)」に基づき人権教育を総合的に推進しています。